

## 地方自治体の臨時・非常勤職員の待遇改善と雇用安定のための 法改正に関する意見書

自治体の臨時・非常勤職員は、いまや3人に1人となり、全国では約70万人にも上る。それらの職員の多くは、年収が約200万円以下であるため官製ワーキングプアとも言われ、雇止め不安を感じながら日々の業務にあたっている。

臨時・非常勤職員の職種は、行政事務職のほか保育士、学童指導員、学校給食調理員、看護師、各種相談員、図書館職員、公民館職員、学校教育など多岐にわたる。その多くの職員が、恒常的業務に就いており、地方自治体は臨時・非常勤職員の労働を無くして一日たりとも機能しない。

しかし、法を遵守する立場にある自治体の臨時・非常勤職員にはパート労働法、労働契約法などが適用されないなど待遇や雇用について保護する制度が整備されておらず、民間労働法制と地方公務員制度の狭間で、法の谷間におかれた存在となっている。

このため、パート労働法や改正労働契約法の趣旨を踏まえ、臨時・非常勤職員の待遇改善、雇用安定に関する法整備を図ることが重要課題となっている。

労働者をめぐる情勢は官民間問わず、不安定雇用と低賃金の非正規労働者が増大することによって格差社会が増大し、地域経済に大きな影響を与えている。

ついては、行政サービスの質の確保と、臨時・非常勤職員の待遇改善、雇用安定の観点、そして持続可能な経済社会に向けて次のことが措置されるよう強く要望する。

### 記

- 1．非常勤職員に期末手当や退職手当の支給を認めていない地方自治法を改正すること。
- 2．均等・均衡待遇を求めているパート労働法の趣旨を、臨時・非常勤等職員に適用させる法整備を図ること。
- 3．臨時・非常勤職員の処遇改善、雇用安定を図るため、任期の定めのない短時間勤務職員制度の導入について検討を行うこと。

以上、地方自治法第99条の規定に基づき、意見書を提出する。

平成25年12月20日

広島県庄原市議会